



ユニゾホールディングス<3258>、従業員による買収（EBO）で非公開化



ユニゾホールディングスは22日、従業員による買収（EBO＝エンプロイー・バイアウト）を実施して非公開化すると発表した。従業員と米投資ファンドのローン・スターが出資する新会社がユニゾに対してTOB（株式公開買い付け）を行い、全株式の取得を目指す。ユニゾをめぐっては現在、ソフトバンクグループ傘下の米投資会社フォートレス・インベストメント・グループによるTOBが8月以降現在も進行中だが、ユニゾ株の買付価格としてフォートレスを1000円上回る5100円を提示した。買付代金は最大1745億円。

ユニゾ株の買付主体となるチトセア投資（東京都中央区）はユニゾ従業員が73%、ローン・スターが27%を出資して設立した。買付価格5100円は先週末（20日）のユニゾ株の終値4900円に約4%のプレミアムを加えた設定。最大100%（3422万126株）、最低でも3分の2以上（2281万3400株）の取得を目指す。買付資金はローン・スターが支援する。

買付期間は12月24日～2020年2月4日。買付代理人は東海東京証券。

ユニゾに対しては現在、フォートレスによるTOBが進行中。別途、ユニゾは米投資会社のブラックストーンをはじめ、国内外の投資ファンドや事業会社との間で買収提案に関する協議を進めていたが、今回の従業員主導によるTOB開始に伴い、フォートレスを含めて一連の協議を終了する。

今回のTOBが成立すれば、小崎哲資ユニゾ社長はじめ、グループのすべての取締役、監査役、執行役員が2020年3月16日付で辞任する予定。